

平成30年11月 8日

松阪市議会  
議長 中島 清晴 様

報告者 殿村 峰代

## 研 修 報 告 書

標記の件について、下記の通り報告いたします。

### 記

1. 日 程 平成30年10月30日（火）～10月31日（水）
2. 研修会 ①「福祉と教育の縦割りを乗り越える  
～ネウボラとアウトリーチ型家庭教育支援の運動が生み出す親子の笑顔～」  
②「財政の質問のポイント  
議員が知っておくべき財政の話 基礎編1・2」
3. 会 場 TKP東京八重洲カンファレンスセンター
4. 参加者 殿村 峰代（共産党）
5. 講 師 ①水野 達朗 家庭教育支援センターペアレンツキャンプ代表理事  
②程岡 俊和 大阪市寝屋川市保険公社清算人 福祉総務課長
6. 目的 議員となって1年を経過し、課題解決のヒントを得るためと、  
財政について基本からしっかりと学び、今後の議会活動の参考とするため。
7. 内容・所感  
第一日目：10月30日（火）14：00～16：30（休憩なし）
  1. これからの時代に求められる「切れ目のない子育て」とは
  2. 切れ目のない子育てを目指すネウボラとは何か
  3. 日本版ネウボラ〈子育て世代包括支援センター〉の課題と展望
  4. 福祉と教育の縦割りの現状と真の「切れ目のない子育て支援」とは何か

地域社会の小判維持が限界を迎える前にいかに生産年齢人口を集めるかが自治体存続

のカギになるが、近年は地域の関係性が希薄化し、ソーシャルキャピタルが貧しくなってきたため、「孤立化」と呼ばれる孤立化した家庭が増加している現状がある。地域に活気をもたらす子育て世代が何を求めているかを知り、子育て世代が安心して子育てできる環境や支援体制を構築することが大切で、家庭が孤立化しないように行政側と継続的につながることができるような支援を提供するためのネウボラが松阪にもできているが、これがライフステージごとに連携して現場レベルでの情報提供や引継ぎがうまくいけるよう、いかにアウトリーチ型家庭教育支援が連動でき、医療と福祉等の連携が図れるかが自治体存続のカギになると知り得ることができた。この仕組みづくりは、その都度選択できるように本人・家庭の尊厳を守れるよう慎重に協議され、柔軟に形成されるようにさらに研究したい。

第2日目：10月31日（水）

基礎編1 10:00～12:00（休憩なし）

1. 財政の基本的知識と用語の解説
2. 予算の種類・内容
3. 歳入・歳出、科目別予算のあらまし
4. 予算編成から決算まで（当初予算・補正予算・決算）

基礎編2 13:00～15:00

5. 地方交付税制度の徹底解説
6. 臨時財政対策債のクラクリと議会答弁の真実  
15:15～16:45
7. 地方債と基準財政需要額の関係事例で解説
8. 予算化されやすい予算要望とは

議員が知っておくべき財政の話として、講師の40年余の行政現場の経験が踏まえた財政のイロハを学ぶことができた。代表質問や一般質問の内容を一般職員は知らないのに、議員から良い提案があっても活きない事が殆どであるらしいので、理事者や担当部局、財務担当と情報共有を行うことが必要であるとのこと。

予算化されるまでのプロセスを知ることで事業そのものを知り、検証も行える。

予算化された政策実現のためには、行政のプロである行政職員とのコミュニケーションを図り、信頼関係を作ったうえで、日ごろからの勉強を怠らないことが必要であると感じた。

以上